

Microsoft® Windows® 版 SAS® 9.2 Foundation 設定ガイド



著作権情報

このマニュアルの正確な書籍情報は、以下のとおりです。

Configuration Guide for SAS® 9.2 Foundation for Microsoft® Windows®

Copyright® 2008, SAS Institute Inc., Cary, NC, USA.

本書は、発行元であるSAS Institute, Inc.の事前の書面による承諾なく、この出版物の全部あるいは一部を、電子データ、印刷、コピー、その他のいかなる形態または方法によって、複製、転送、または検索システムに保存することは禁止されています。これらの説明書は著作権により保護されています。

著作権保護を受ける本書の使用の範囲は制限されています。許される使用の範囲とは、使用者のシステムに保存して端末に表示すること、本書が提供された目的である、SASプログラミングおよびライセンスプログラムのインストール・サポートの責任者が使用するために、必要な部数だけコピーすること、および特定のインストール要件を満たすように内容を修正することを指します。本書の全部あるいは一部を印刷する場合、またはディスプレイ媒体に表示する場合は、SAS Instituteの著作権表示を明記する必要があります。上記の条件以外で本書を複製または配布することは一切禁止されています。

アメリカ合衆国政府の制約された権限についての通知

アメリカ合衆国政府による、本ソフトウェアおよび関連するドキュメントの使用、複製、公開は、「FAR52.227-19 Commercial Computer Software-Restricted Rights」（1987年6月）に定められた制限の対象となります。

SAS Institute Inc., SAS Campus Drive, Cary, North Carolina 27513.

SAS®およびSAS Instituteのブランド名またはサービス名は、米国およびその他の国におけるSAS Institute Inc.の登録商標または商標です。

®は米国で登録されていることを示します。

その他、記載されている会社名および製品名は各社の登録商標または商標です。

目次

設定ガイドについて	vi
第1章：メタベース機能の設定	1
システムリポジトリマネージャファイルの設定	1
リポジトリマネージャにSASHELPリポジトリを登録	1
SAS 6のSAS/EISメタベースをSAS 8のリポジトリに変換	2
第2章：NLS (National Language Support) の設定	3
DBCS (日本語、中国語、韓国語) サポート	3
デフォルトのDBCSLANGとDBCSTYPEオプション設定の変更	3
Unicodeサーバーのための構成ファイルの変更	3
アジア言語用フォントカタログ	4
中国語繁体字フォントのインストール	4
中国語 (繁体字) フォントを利用するため構成ファイルにフォントカタログを指定	4
中国語 (繁体字) フォントを利用するためSASセッションにフォントカタログを指定	4
ヨーロッパ言語サポート	4
SAS 9.2におけるロケールの設定	4
デフォルトのLOCALEオプション設定の変更	5
異なるロケールでSASを実行	5
追加情報	5
リモートサーバーのロケールの設定	6
SAS/GRAPHのDevmapとKeymap	6
第3章：SAS Accelerator Publishing Agent ソフトウェアの設定	9
SAS Enterprise Miner Score Exportノードのインストール	9
SAS Enterprise Miner Score Code Exportノードの概要	9
配布手段	9
インストール必要条件	10
インストール手順	10
インストールの検証	11
SAS Scoring Code Exportノードの使用に関するドキュメント	11
SAS Formats Library for Teradataのロード	12
Teradata Parallel Upgrade Toolの使用	12
手動による手順	14
V2R6およびTD12	14
MP-RAS	14
SAS Formats Library for Teradataの使用に関するドキュメント	16
第4章：SAS/ACCESS Interface	17
SAS/ACCESS Interface to MySQLの設定	17
SAS/ACCESS Interface to ODBCの設定	17
SAS/ACCESS ODBC移行ユーティリティ	18

AS/400ユーザー	19
Microsoft SQL Serverユーザー	20
SAS/ACCESS Interface to Oracleの設定	21
SAS/ACCESS Interface to SYBASEの設定	21
SAS/ACCESS Interface to Teradataの設定	21
FastExport	22
MultiLoad	22
第5章：SAS/ASSISTの設定	24
マスタープロファイルの追加	24
第6章：SAS/CONNECTの設定	26
SAS/CONNECTスクリプトファイルの保存と配置	26
TCP/IP	26
SAS Windowsスポーナプログラムの設定	26
第7章：SAS/IntrNetの設定	28
概要	28
SAS/IntrNetのインストールと設定	29
Webサーバーのインストール	29
SASソフトウェアのインストール	29
[CGI Tools Installation] のダイアログ	29
異なるオペレーティングシステムのマシンへのCGI ToolsおよびSAS Foundationのインストール	32
Webサーバーのテスト	33
アプリケーションブローカー (Application Broker) のテスト	33
デフォルトのアプリケーションディスパッチャーサービス (Application Dispatcher Service) の設定	33
デフォルトサービスの開始と停止	34
ソケットサービス (Socket Service) のテスト	34
追加サービスの設定	36
第8章：SAS/SECUREクライアントコンポーネントのインストール	37
SAS/SECURE for Windows Clients	37
SAS/SECURE for Java Clients	37
第9章：SAS/SHAREの設定	39
TCP/IPアクセス方式の使用	39
TCP/IPアクセス方式のシステム設定	39
クライアント側のコンポーネント	40
SAS/SHAREデータプロバイダ	40
SAS ODBCドライバ	40
JDBC用SAS/SHAREドライバ	40
C言語用SAS/SHARE SQLライブラリ	40
NLS情報	40

第10章 : Windowsパフォーマンスモニタおよびイベントログのサポート ----- 41

設定ガイドについて

このドキュメントは、サーバーサイドのBase SASと、さまざまなSASプロダクト（使用するプロダクトはサイトによって異なります）によって構成されるSAS 9.2 Foundationの設定方法を解説しています。ミドル層とクライアント層におけるプロダクトの設定方法の情報は、SAS Software Navigatorから参照できます。

このドキュメントに含まれているサーバーサイドの設定手順は、一般的なSASサーバーのための解説です。OLAP、Workspace Server（ワークスペースサーバー）、Stored Process Server（ストアードプロセスサーバー）の設定に関する詳細は、『SAS Integration Technologies: Server Administrator's Guide』を参照してください。このドキュメントは、次のWebサイトから入手できます。

<http://www.sas.com/japan/service/documentation/configuration/index.html>

第1章：メタベース機能の設定

SAS 7において、SAS/EISメタベース機能は、V7共通メタデータリポジトリ（Common Metadata Repository）に変更されました。共通メタデータリポジトリは、全般的用途に使用されるメタデータ管理機能で、さまざまなメタデータ方式のアプリケーションに、共通のメタデータサービスを提供します。

共通メタデータリポジトリを使用するには、リポジトリマネージャを一度設定する必要があります。旧リリースでリポジトリマネージャを設定していた場合、再度設定し直す必要はありません。次のセクションで説明する手順は、メタベース機能を使用する前に完了しておく必要があります。SAS 7より前のリリースでメタベース機能を使用していたユーザーが共通メタデータリポジトリを使用するには、変換が必要です。詳細は、「SAS 6のSAS/EISメタベースをSAS 8のリポジトリに変換」を参照してください。

システムリポジトリマネージャファイルの設定

以下の手順を実行し、必要なシステムリポジトリマネージャファイルを設定してください。システムリポジトリマネージャを指定するには、SASHELPへの書き込み権限が必要です。

注意： この処理は、サイトにおけるリポジトリマネージャのデフォルトの場所を設定します。各ユーザーは、下記の手順でユーザーごとに異なるリポジトリマネージャの場所を指定できます。その際、[システムリポジトリに値を書き込む] チェックボックスは選択しません。

1. リポジトリマネージャファイルだけを保存するディレクトリを作成します。例えば、次のようになります。

```
!SASROOT¥RPOSMGR
```

このディレクトリに他のSASファイルを保存しないでください。

2. SASコマンド行に「REPOSMGR」と入力し、[リポジトリマネージャの設定] を選択します。
3. [リポジトリマネージャの設定] ウィンドウで、ライブラリのデフォルトは「RPOSMGR」に設定されます。パスに手順1で作成したパスを指定し、[システムリポジトリに値を書き込む] チェックボックスを選択します。[OK] を選択します。
4. 表示されたダイアログボックスで [はい] を選択し、必要なリポジトリマネージャファイルを作成します。

これで、システムリポジトリマネージャの設定が完了しました。手順1～手順4を繰返し、追加のリポジトリマネージャ（ユーザーリポジトリマネージャなど）を設定できます。その際、手順1で異なるパスを指定します。

リポジトリマネージャにSASHELPリポジトリを登録

SASHELPリポジトリは、SAS/EISレポートギャラリーテンプレートなど、さまざまなサンプルで使用されています。以下の操作を行う前に、リポジトリマネージャを作成する必要があります

(前のセクションを参照)。以下の手順を実行し、リポジトリマネージャにSASHELPリポジトリを登録してください。

1. SASコマンド行に「REPOSMGR」と入力し、[リポジトリの登録] を選択します。
2. [リポジトリの登録] ウィンドウで、[新規作成] を選択します。
3. [リポジトリの登録 (新規作成)] ウィンドウの [リポジトリ名] フィールドに大文字で「SASHELP」と入力し、[パス] フィールドにCOREカタログが保存されているディレクトリのフルパス名を入力します。例えば、次のようになります。

```
!SASROOT¥CORE¥SASHELP
```

4. [説明] フィールドに、適当な説明を入力します (例: SASHELPリポジトリ)。[OK] を選択し、[リポジトリの登録 (新規作成)] ウィンドウを閉じます。[閉じる] を選択し、[リポジトリの登録] ウィンドウを閉じます。

注意: パスに連結ディレクトリを指定できないので、リポジトリは複数のディレクトリにまたがって登録することはできません。既存のメタベースが連結ディレクトリに登録されている場合、メタベースを1つのパスにコピーし、それをリポジトリとして参照してください。

SAS 6のSAS/EISメタベースをSAS 8のリポジトリに変換

SAS 6のメタベースをSAS 8のリポジトリに変換する方法は、SAS/EISのオンラインヘルプの「Converting Existing SAS/EIS Metabases」を参照してください ([SAS Products] - [SAS/EIS] - [Additional Information] - [Metabase Facility] を選択し、さらに [Converting Existing SAS/EIS Metabases] を選択します)。

第2章：NLS（National Language Support）の設定

この章では、アジア・ヨーロッパ言語サポートの設定について説明します。

重要： 他言語にローカライズされたSASを実行するには、Windowオペレーティングシステムの地域設定が適切な言語に設定されている必要があります。Windowsの地域の設定と、ローカライズされた言語が一致しない場合、予期しない結果を得る可能性があります。

異なる複数の言語バージョンをインストールしている場合、SASイメージを起動する前に、それぞれ適切な地域の設定に変更する必要があります。地域の設定の使用および変更方法の詳細は、Microsoft Windowsのマニュアルを参照してください。

DBCS（日本語、中国語、韓国語）サポート

このセクションでは、DBCSSLANGシステムオプションとDBCSTYPEシステムオプションのデフォルト設定を変更し、アジア言語用フォントカタログを指定する方法について説明します。

注意： DBCSSLANGシステムオプションとDBCSTYPEシステムオプション（次のセクションを参照）は、アジア文字セット用のロケールを設定する場合に使用します。LOCALEシステムオプションとENCODINGシステムオプション（SASシステムヘルプを参照）は、ヨーロッパ言語用ロケールを設定する場合に使用します。

デフォルトのDBCSSLANGとDBCSTYPEオプション設定の変更

SAS 9.2 Foundationのインストール時にNLS言語の機能を読み込む際、選択した言語とプラットフォームに基づいて、DBCSSLANGシステムオプションとDBCSTYPEシステムオプションのデフォルト値が自動的に設定されます。例えば、Windows 2000に基本の言語を日本語でインストールする場合、構成ファイル（!sasroot\nls\ja\sasv9.cfg）のDBCSSLANGを「JAPANESE」に、DBCSTYPEを「PCMS」に設定します。

Unicodeサーバーのための構成ファイルの変更

構成ファイルは2つあります。1つは「c:\program files\sas\sas 9.2\sasv9.cfg」で、このファイルは2つ目の「c:\program files\sas\sas 9.2\nls\1d\sasv9.cfg」を指しています。SASをUnicodeサーバーとして実行するには、この構成ファイルを以下のように変更してください。

1. DBCSの設定は、上記の2番目の構成ファイルで指定します。この構成ファイルのDBCSSLANGオプションおよびDBCSTYPEオプションをコメントアウトします。例えば、次のようになります。

```
/* -DBCSTYPE PCMS */
/* -DBCSSLANG JAPANESE */
```

2. ENCODINGオプションを追加し、値にUTF-8（ENCODING=UTF-8）を設定します。

```
-ENCODING=UTF-8
```

3. FONTおよびSYSGUIFONTシステムオプションを追加し、値にTrueTypeフォント（例えばThorndale Duospace）を指定します。

アジア言語用フォントカタログ

アジア言語用のデフォルトの構成ファイルには、フォントがすでに定義されています（ただし、DBCS拡張機能を利用するための構成ファイルには、フォントが定義されていません）。アジア言語用フォントカタログは、インストール時に言語別のサブディレクトリに保存されます。フォントカタログを変更するには、構成ファイルまたはSASセッションで指定します。

中国語（繁体字）フォント以外のアジア言語フォントは、SASHELP.FONTSカタログにあります。中国語繁体字用の構成ファイルは、フォントカタログがすでに定義されています（ただし、DBCS拡張機能を利用するための構成ファイルには、フォントが定義されていません）。中国語（繁体字）フォントを使用するには、構成ファイルまたはSASセッションで指定します。

中国語繁体字フォントのインストール

中国語繁体字フォントを使用するには、中国語繁体字版をインストールする必要があります。また、次のセクションで説明するように、構成ファイルを変更する必要があります。

中国語（繁体字）フォントを利用するため構成ファイルにフォントカタログを指定

中国語繁体字版は実行しないが中国語繁体字フォントを使用したい場合、構成ファイルでGFONTxを次のように指定します。

```
-set gfontx !SASROOT/nls/zt/font-name
```

引数には次の値を入力します。

- x : 0 ~ 9 の値
- font-name : フォントカタログ名

中国語（繁体字）フォントを利用するためSASセッションにフォントカタログを指定

SASセッションを使用してフォントカタログのパスを割り当てるには、次のLIBNAMEステートメントを実行します。

```
-libname gfontx !sasroot%nls%langcode%font-name
```

引数には次の値を入力します。

- x : 0 ~ 9 の値
- font-name : フォントカタログ名

ヨーロッパ言語サポート

以下のセクションでは、ロケールを設定する異なる方法や、リモートセッションヘデータを転送する際のローカルセッションの設定方法を解説し、オペレーティングシステムのロケールに対応するdevmapとkeymapのリストを紹介します。

SAS 9.2におけるロケールの設定

デフォルト以外のロケールをSASセッションに設定するには、2通りの方法があります。このセクションでは、これらの方法について説明します。

デフォルトのLOCALEオプション設定の変更

SAS 9.2 Foundationのインストール時にNLS言語が選択されている場合、LOCALEシステムオプションにインストールした言語のデフォルト値が自動的に設定されます。LOCALEオプションは、インストールした各言語のシステム構成ファイル内に設定されます。

例えば、!SASROOT¥nls¥fr¥sasv9.cfgは、LOCALEがFrench_France（フランス語）に設定されま

ず。

SASのデフォルトのロケール設定を変更する場合は、システム環境構成ファイル内のLOCALEシステムオプションを適切な言語に設定します。

例えば、!SASROOT¥nls¥fr¥sasv9.cfg内の-locale French_Franceを、-locale French_Canadaに変更します。

異なるロケールでSASを実行

ユーザー側サイトでSAS 9.2のロケールを設定するには、LOCALEシステムオプションを構成ファイルに追加します。ロケール値のリストは、『SAS 9.2 National Language Support (NLS) User's Guide』に記載されています。

ファイルの読み取り／書き込みを行う際、SAS 9.2は外部ファイルのデータがセッションエンコーディングと同じであることを前提にしています。異なるエンコーディングを指定するには、FILENAME、INFILE、FILEステートメントのENCODINGシステムオプションを使用します。詳細は、『SAS 9.2 National Language Support (NLS) Use's Guide』を参照してください。

LOCALEを設定すると、ENCODINGシステムオプションはロケールの言語をサポートするエンコーディングに設定されます。SAS 9.2は、ユーザーのデータがENCODINGオプションと一致するエンコーディングであることを前提にしています。ロケールに対して一般的なエンコーディング以外のエンコーディングを使用する場合、構成ファイルにENCODINGシステムオプションも設定します。

ENCODINGオプションを設定すると、ENCODINGシステムオプションと一致するTRANTABオプションが設定されます。TRANTABオプションによって設定される移送形式変換テーブルは、CPORTプロシジャとCIMPORTプロシジャでSASデータファイルを移送する際に使用されます。また、UPLOADプロシジャとDOWNLOADプロシジャでもこれらの変換テーブルを使用して、ファイルやカタログを転送したり、リモートでコードをサーバーにサブミットしたり、クライアントにログや結果を出力します。

ODS（Output Delivery System）は、ENCODINGシステムオプションに一致するエンコーディングを使用して出力を作成します。異なるエンコーディングを使用して出力を作成する方法は、ODSのドキュメントを参照してください。

CPORTプロシジャおよびCIMPORTプロシジャの詳細は、『Base SAS 9.2 Procedures Guide』を参照してください。UPLOADプロシジャとDOWNLOADプロシジャの詳細は、『SAS/CONNECT 9.2 User's Guide』を参照してください。

追加情報

実行するアプリケーションによって、追加の設定が必要な場合があります。代替ロケールで実行するためのシステム設定については、以下のセクションを参照してください。

リモートサーバーのロケールの設定

注意： %LSマクロはSAS 9.1で提供されたマクロです。このマクロは、以前のリリースで使用されていた [ロケール設定] ウィンドウの機能を置き換えます。以下のセクションで SAS 9に対して述べている内容は、SAS 9以降のすべてのリリースのSASに関係します。

SAS 9をクライアントとサーバーの両方のセッションで実行している場合、どのようなロケール設定を行うのにも%LSマクロを使用する必要は通常ありません。サーバーのロケールは、クライアントセッションのロケールに合わせたものに設定します。さもないとデータに問題が生じます。

SAS 9のクライアントがSAS 9以前のリリースのサーバーセッションと接続している場合、データの移送のためにリモートSAS環境を設定するのに%LSマクロを使用できます。以前のリリースでは [ロケール設定] ウィンドウを使用しましたが、%LSマクロは、LOCALEカタログからSASUSER.PROFILEにhost-to-host変換テーブルをコピーします。

SAS/CONNECTを使用してリモートSASサーバーに接続する場合、クライアントが使用しているロケールをサーバーセッションに設定する必要があります。クライアントからリモートセッションにサインオンした後、サーバーを設定しなければなりません。

次に、リモート接続のロケールをどのように設定するかを示します。

SAS 9同士の接続： 起動時にLOCALEオプションを使用します。SASクライアントセッションとサーバーセッションのLOCALEオプションの値は、同じに設定します。以下に例を示します。

```
sas -locale Spanish_Spain
```

SAS 9と以前のリリースのSASとの接続：

- SAS 9でデータを受け取る：起動時に、SAS 9側でLOCALEオプションを使用します。

例：sas -locale Spanish_Mexico

- 以前のリリースのSASでデータを受け取る：起動時に、SAS 9にLOCALEオプションを指定します。

例：sas -locale Spanish_Guatemala

接続が確立した後、SAS 9で%LSマクロを使用して、以前のリリースのSAS上のホスト間変換テーブルを設定してください。例えば、次のプログラムをサブミットします。

```
%ls(locale=Spanish_Guatemala, remote=on);
```

SAS/GRAPHのDevmapとKeymap

SAS/GRAPHを使用して非アスキー文字を表示する場合、使用している環境のエンコードに一致する適切なdevmapとkeymapを使用する必要があります。devmapエントリとkeymapエントリは、SASHELP.FONTSカタログに含まれています。使用しているエンコードの正しいdevmapとkeymapを取得するには、%LSGRAPHマクロを使用します。

%LSGRAPHマクロで自動的に環境を設定する方法は、次の2通りあります。

- エンコードに一致するdevmapとkeymapエントリを、GFONT0.FONTSカタログにコピーする。

- devmapとkeymapが読み込まれるように、エントリ名をDEFAULTに変更する。

次の例では、Windows環境でポーランドのユーザーが正しいdevmapとkeymap（WLT2）を設定するのに、%LSGRAPHを使用しています。

```
libname gfont0 'your-font-library';  
%lsgraph(wlt2);
```

次の表は、各言語のロケールに一致するdevmapとkeymapのリストです。

ロケール	Devmap と Keymap の名称
Arabic_Algeria	wara
Arabic_Bahrain	wara
Arabic_Egypt	wara
Arabic_Jordan	wara
Arabic_Kuwait	wara
Arabic_Lebanon	wara
Arabic_Morocco	wara
Arabic_Oman	wara
Arabic_Qatar	wara
Arabic_SaudiArabia	wara
Arabic_UnitedArabEmirates	wara
Arabic_Tunisia	wara
Bulgarian_Bulgaria	wcyr
Byelorussian_Belarus	wcyr
Croatian_Croatia	wlt2
Czech_CzechRepublic	wlt2
Danish_Denmark	wlt1
Dutch_Belgium	wlt1
Dutch_Netherlands	wlt1
English_Australia	wlt1
English_Canada	wlt1
English_HongKong	wlt1
English_India	wlt1
English_Ireland	wlt1
English_Jamaica	wlt1
English_NewZealand	wlt1
English_Singapore	wlt1
English_SouthAfrica	wlt1
English_UnitedKingdom	wlt1
English_UnitedStates	wlt1
Estonian_Estonia	wbal
Finnish_Finland	wlt1
French_Belgium	wlt1
French_Canada	wlt1
French_France	wlt1
French_Luxembourg	wlt1
French_Switzerland	wlt1
German_Austria	wlt1
German_Germany	wlt1
German_Lichtenstein	wlt1
German_Luxembourg	wlt1

ロケール	Devmap と Keymap の名称
German_Switzerland	wlt1
Greek_Greece	wgrk
Hebrew_Israel	wheb
Hungarian_Hungary	wlt2
Icelandic_Iceland	wlt1
Italian_Italy	wlt1
Italian_Switzerland	wlt1
Latvian_Latvia	wbal
Lithuanian_Lithuania	wbal
Norwegian_Norway	wlt1
Polish_Poland	wlt2
Portuguese_Brazil	wlt1
Portuguese_Portugal	wlt1
Romanian_Romania	wlt2
Russian_Russia w	cyr
Serbian_Yugoslavia	wcyr
Slovakian_Slovakia	wlt2
Slovenian_Slovenia	wlt2
Spanish_Argentina	wlt1
Spanish_Bolivia	wlt1
Spanish_Chile	wlt1
Spanish_Colombia	wlt1
Spanish_CostaRica	wlt1
Spanish_DominicanRepublic	wlt1
Spanish_Ecuador	wlt1
Spanish_ElSalvador	wlt1
Spanish_Guatemala	wlt1
Spanish_Honduras	wlt1
Spanish_Mexico	wlt1
Spanish_Nicaragua	wlt1
Spanish_Panama	wlt1
Spanish_Paraguay	wlt1
Spanish_Peru	wlt1
Spanish_PuertoRico	wlt1
Spanish_Spain	wlt1
Spanish_UnitedStates	wlt1
Spanish_Uruguay	wlt1
Spanish_Venezuela	wlt1
Swedish_Sweden	wlt1
Turkish_Turkey	wtur
Ukrainian_Ukraine	wcyr

第3章：SAS Accelerator Publishing Agent ソフトウェアの設定

この章では、SAS Enterprise Miner Score ExportノードとSAS Score Publishing Agent for Teradataのインストールおよび設定について説明します。この作業は、Windows環境において、SAS Accelerator Publishing AgentおよびSAS Enterprise Miner Score Exportノードを含むSAS Foundationの最初のインストールがすでに行われていることを前提としています。

SAS Enterprise Miner Score Exportノードのインストール

SAS Enterprise Miner Score Code Exportノードの概要

Score Code Exportノードは、SAS Enterprise Miner以外の環境に配置するスコアコートファイルをエクスポートするSAS Enterprise Minerのための拡張機能です。この拡張機能は、SAS Enterprise Minerのプログラム可能なアドインです。

Score Code Exportノードでは、以下のファイルをエクスポートします。

- スコアリングプログラム
- スコアリング変数およびその他のプロパティを含むXMLファイル
- スコアリングコードによって作成された最終変数の説明を含むXMLファイル。このファイルは、意思決定のプロセスとして保存しておくことができます。
- 入力属性、中間変数、最終出力変数の典型的なスコアリングされた10列のサンプルのSASデータセット。このファイルは、新しいスコアリングプロセスのテストおよびデバッグに使用することができます。
- SAS Enterprise Minerによってスコアリングされていない、オリジナルデータの10列のサンプルのSASデータセット。
- サンプルデータセット中のいずれかの変数がユーザー定義フォーマットを使用する場合のフォーマットカタログ。

以下は、SAS Enterprise MinerプロセスフローダイアグラムでScore Code Exportノードがどのように表示されるかのイメージです。



配布手段

Score Code Exportノードは、次のファイルを含むZipファイルによって配布されます。

- ノードのエントリソースファイルを含むemscrxpt.cportカタログ。
- ノードの2つのイメージ：
 - SAS Enterprise Miner Utilityツールバーで使用されている16x16ピクセルのイメージ。
 - SAS Enterprise Minerダイアグラムワークスペースでノードを表す32x32ピクセルのイメージ。
- XMLプロパティファイル

このZipファイルは、SAS 9.2 Foundationをインストールしたマシン上の、<SASHOME>%SASFormatsLibraryForTeradata%9.2%EMSCENode%SCENode.zipにあります。

インストール必要条件

Score Code Exportノードをインストールする前に、以下のソフトウェアをインストールしておかなければなりません。

- SAS 9.1.3 Service Pack 4
- SAS Enterprise Miner 5.3

インストール手順

Score Code Exportノードをインストールする手順は、以下のとおりです。

1. 以下のコンピュータの内の1つまたは両方の一時ディレクトリへ、配布ファイルをコピーおよび解凍します。
 - SAS Foundationがインストールされているコンピュータ。
 - SAS Analytics Platformミドル層サービスを使用している場合、SAS Analytics Platformサーバーがインストールされているコンピュータ。

配布ファイルの移動には、システム管理者が推奨する方法を使用してください。TelnetまたはWebアプリケーションを使用するなどの方法があります。

2. SAS Foundationがインストールされているコンピュータ上で、次の手順を行います。
 - A SASでアクセス可能なディレクトリにemscrxpt.cportをコピーしてください（例：C:%sas%emscrxpt.cport）。
 - B SASのウィンドウ環境またはSAS Enterprise Minerのプログラムエディタから、以下のCIMPORTプロシジャを実行し、sashelpライブラリにScore Code Exportノードをインストールします。

```
proc cimport infile='accessible_directory%emscrxpt.cport'
  catalog=sashelp.emscrxpt;
run;
```

3. SAS Analytics Platformミドル層サーバーがインストールされている場合、ミドル層サーバーのコンピュータに以下をインストールします。SAS Analytics Platformミドル層サーバーがインストールされていない場合、SAS Enterprise Minerクライアントコンピュータに以下をインストールします。

- A SAS Enterprise Minerクライアントディレクトリのextディレクトリへ、CodeExport.xmlプロパティファイルをコピーします。

```
...%sas%SASAPCore%apps%EnterpriseMiner%ext
```

- B 16x16ピクセルおよび32x32ピクセルのイメージを、それぞれgif16およびgif32ディレクトリにコピーします。

```
...%sas%SASAPCore%apps%EnterpriseMiner%ext%gif16
...%sas%SASAPCore%apps%EnterpriseMiner%ext%gif32
```

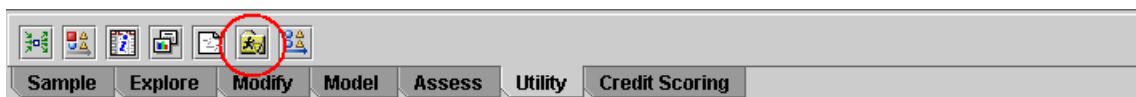

4. すべてのSAS Enterprise Miner 5.3のセッションを停止させます。
5. SAS Analytics Platformをミドル層サービスまたはプロセスとして実行している場合、サービスまたはプロセスを停止および再起動させてください。
6. SAS Enterprise Miner 5.3クライアントを起動します。

インストールの検証

インストールの終了後、SAS Enterprise Minerによって提供されるデフォルト値を使用して、インストールの検証を行います。Score Code Exportノードを実行すると、出力ファイルのデフォルトのディレクトリはプロジェクトのディレクトリです。

インストールを検証するには、以下を実行します。

1. 新しいテストプロジェクトを作成します。[Utility (ユーティリティ)] タブが表示されますが、アクティブではありません。
2. データソースを指定します。
3. 新規プロジェクトのダイアグラムを作成します。Enterprise Minerクライアントの[Utility (ユーティリティ)] タブをクリックし、下記の画面に示すScore Code Exportノードのアイコンを探します。



4. ダイアグラムにノードを追加します。ダイアグラムの最後の2つのノードは、それぞれScoreノードおよびScore Code Exportノードでなければなりません。
5. Score Code Exportノードアイコンを右クリックし、[実行] を選択します。
6. 実行の完了後、出力ディレクトリに以下のファイルが作成されていることを確認します。
 - score.sas – スコアリングコードを含むファイル。
 - score.xml – 入力変数および出力変数のようなスコアリングプロパティを含むファイル。
 - emoutput.xml – スコアリングコードによって作成された最終変数の説明を含むXMLファイル。このファイルは、意思決定のプロセスとして保存しておくことができます。
 - scoredata.sas7bdat – 入力属性、中間変数、最終出力変数の典型的なスコアリングされた10列のサンプルのSASデータセット。
 - traindata.sas7bdat – オリジナルデータの10列のサンプル。SAS Enterprise Minerによってスコアリングされていません。

[ユーティリティ] タブの上にScore Code Exportノードアイコンが表示されていない場合、または出力ディレクトリに出力ファイルが作成されていない場合、SASサポート担当者またはSASテクニカルサポートにご連絡ください。

SAS Scoring Code Exportノードの使用に関するドキュメント

Teradata Enterprise Data WarehouseにおいてモデルをスコアリングするSAS Enterprise Miner Score Code Exportノードの使い方に関する情報は、『SAS Scoring Accelerator 1.4 for Teradata:』

Users Guide』 (<http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/scoraccl/index.html>) を参照してください。

SAS Formats Library for Teradataのロード

SAS Formats Library for Teradataは、フォーマットルーチンのためのランタイムライブラリです。この章で解説している手順を使用して、Teradataマシン上でSAS Formats Library for Teradataをロードすることにより、そこに作成されたユーザー定義機能が、そのランタイムライブラリ内のルーチンにアクセスするようになります。

ユーザー定義機能 (UDF) のスコアリングモデルの大きさを増やす

CREATE/REPLACENS関数にNS (「No Save」ソース) オプションを追加するTeradata DBMSパッチをインストールすることによって、ユーザー定義機能のスコアリングモデルの最大の大きさを増やすことができます。このパッチが適用されると、この新しいオプションは、スコアリングモデルのパブリッシュマクロにより自動的に使用されます。ユーザーの介入は必要としません。

この作業は、SAS Formats Library for Teradataをロードする前に行ってください。このパッチは、Teradata DBMSの下記のバージョンに含まれています。

- 06.02.02.34 (LinuxおよびMP-RAS)
- 12.00.01.07 (LinuxおよびMP-RAS)

このオプションにおける詳細は、Teradataのサポート担当者に尋ねるか、Teradata DR 120829を参照してください。

Teradata Parallel Upgrade Toolの使用

Teradataを実行中のマシンへSAS Formats Library for Teradataをロードする手順を始める前に、SAS Formats Libraryパッケージファイルjzxfbrs-9.2-1.4.x86_64.rpm (V2R6またはTD12) あるいはjzxfbrs-9.2-1.4.pkg (MP-RAS) が、Teradataマシンからアクセス可能であることを確認してください。SAS Foundationのインストールが完了したら、使用しているサーバーの種類に応じて、インストールしたマシンの以下の場所にファイルがあります。

- V2R6 - <SASHOME>/SASFormatsLibraryForTeradata/9.2/Formats/V2R6/Linux
- TD12 - <SASHOME>/SASFormatsLibraryForTeradata/9.2/Formats/TD12
- MP-RAS - <SASHOME>/SASFormatsLibraryForTeradata/9.2/Formats/V2R6/MP-RAS

以下の手順は、Teradataシステム管理者によって行われる必要があります。この手順は、Teradata Parallel Upgrade Tool (PUT) の実行、および動作環境に関して必要な知識があることを前提としています。Teradata Parallel Upgrade Toolの使用法に関する詳細は、『Parallel Upgrade Tool (PUT) for UNIX MPRAS and Linux User Guide』 (<http://www.info.teradata.com/Gen-Srch/eOnLine-Srch.cfm>) を参照してください。使用しているTeradataのバージョンに対応したドキュメントをダウンロードしてください。

1. Teradataマシンで、Teradata Parallel Upgrade Toolを起動します。Teradataシステム上で、ソフトウェアをインストールする権限のあるアカウントを使用して、PUTにログインします。
2. [Welcome to the Parallel Upgrade Tool] ダイアログが表示されます。タスクのリストから [Install/Upgrade Software] を選択し、さらに [Next] をクリックします。

3. [Configuration Mode] ダイアログが表示されます。[Typical Configuration] を選択し、さらに [Next] をクリックします。
4. [Network Subnet Selection] ダイアログが表示されます。[Subnet Addresses] リストから、使用しているシステムの正しいアドレスを選択します（一般的にはBYNETネットワーク）。[Next] をクリックします。
5. [Select Nodes] ダイアログが表示されます。左側の [Available Nodenames] リストで、SAS Formats Libraryをインストールするノードを反転表示させます。すべてのデータベース（TPA）ノードを選択してください。それから、右側の矢印をクリックし、選択を [Selected Nodename] ウィンドウに移動させます。適切なノードをすべて右側に移動させたら、[Next] をクリックします。
6. [Select Spool Area for Linux Nodes] ダイアログが表示されます。ダイアログの説明に目を通し、Teradataノード上のパッケージをスプールする場所を選択するため、記述されている手順を実行します。[Next] をクリックします。
7. [Enter Source for New Packages] ダイアログが表示されます。テキストボックスに、jazxfbrs-9.2-1.4.x86_64.rpm（V2R6およびTD12）、またはjazxfbrs-9.2-1.4.pkg（MP-RAS）へのパスを入力します。[Next] をクリックします。
8. [Media Source Confirmation] ダイアログが表示されます。[No] ラジオボタンおよび [Keep it] ラジオボタンをクリックします。[Next] をクリックします。
9. [Media Source(s) to be Scanned] ダイアログが表示されます。このダイアログで、手順8の選択を確認します。表示されている情報が正しければ、[Next] をクリックします。注意のダイアログが表示された場合、[OK] をクリックして作業を続けます。
10. [Group Nodes] ダイアログが表示されます。このダイアログでは、何も行う必要はありません。Teradataシステムで、すべてのTeradataデータベース（TPA）ノードを含んでいるグループに注意してください。[Next] をクリックします。
11. [Select Packages] ダイアログが表示されます。表示されるパッケージは、jazxfbrsだけです。[Group] カラムは空になります。パッケージをクリックします。
 - A ヘッダーが「**Modify package (jazxfbrs) version (9.2-1.4) OS type (Linux)**」であるウィンドウが表示されます。TPAノードを含む左側のウィンドウで、すべてのグループを反転表示させます。それから、右側の矢印をクリックし、これらのグループを右側のウィンドウに移動させます。[Next] をクリックします。
 - B [Select Packages] ダイアログに戻ります。[Group] カラムには情報が表示されています。[Next] をクリックします。
12. [Confirm Package Selections] ダイアログが表示されます。ダイアログに表示されている情報を確認し、[Next] をクリックします。
13. 入力を必要としないいくつかのダイアログが表示されます。Teradata Parallel Upgrade Tool は、インストールの準備中です。やがて、[Begin Installing Packages Now?] ダイアログが表示されます。[Next] をクリックして、インストールを開始します。

14. パッケージのインストール後、 [Overall Package Install Results] ダイアログに「SUCCESS!」と表示されます。 [Next] をクリックします。
15. さらにいくつかの入力を必要としないダイアログが表示され、それから [Select Teradata Startup Option] ダイアログが表示されます。最も適切なオプションを選択し、それから [Next] をクリックします。
16. [Finished!] ダイアログが表示されます。 [Finish] をクリックし、Teradata Parallel Upgrade Toolを終了します。

手動による手順

V2R6およびTD12

テスト環境にインストールされている1ノードのマシンの場合などは、rpmファイルをロードするのにTeradata Parallel Upgrade Toolへアクセスしないでください。このような場合は、Teradataマシンにファイルをロードするのに、以下の手動の手順を使用してください。この手順は、Teradataシステム管理者によって行われる必要があります。

1. ソフトウェアをインストールする権限のあるアカウントを使用して、Teradataシステム上にログインします（通常はrootを使用します）。
2. Teradataシステムで、jazxfbrs-9.2-1.4.x86_64.rpmを使用可能にします（ネットワーク上の共有、CD-ROM、ファイルのコピーなど）。
3. Teradataシステム上にコピーするために、任意のパッケージスプールディレクトリへjazxfbrs-9.2-1.4.x86_64.rpmファイルをコピーします（この手順はオプションです）。
4. パッケージをコピーしたディレクトリへ移動します。
5. シェルのコマンドプロンプトに、次のコマンドを入力してください。出力はありません。

```
rpm -U jazxfbrs-9.2-1.4.x86_64.rpm
```

6. インストールの確認には、シェルのコマンドプロンプトで、次のコマンドを発行します。

```
rpm -q jazxfbrs
```

インストールが成功している場合、次のように表示されます。

```
jazxfbrs-9.2-1.4
```

詳細な情報が必要な場合、以下のコマンドが使用できます。しかし、インストールの確認に必要な以上の情報が表示されます。

```
rpm -qi jazxfbrs
```

MP-RAS

テスト環境にインストールされている1ノードのマシンの場合などは、pkgファイルをロードするのにTeradata Parallel Upgrade Toolへアクセスしないでください。このような場合は、Teradataマシンにファイルをロードするのに、以下の手動の手順を使用してください。この手順は、Teradataシステム管理者によって行われる必要があります。

1. ソフトウェアをインストールする権限のあるアカウントを使用して、Teradataシステム上にログインします（通常はrootを使用します）。
2. Teradataシステムで、jazxfbrs-9.2-1.4.pkgを使用可能にします（ネットワーク上の共有、CD-ROM、ファイルのコピーなど）。
3. Teradataシステム上にコピーするために、任意のパッケージスプールディレクトリへjazxfbrs-9.2-1.4.pkgファイルをコピーします（この手順はオプションです）。
4. 以下にPKG_LOCATIONとして記述されている、パッケージのあるディレクトリに移動します。
5. シェルのコマンドプロンプトに、次のコマンドを入力してください。パス名には、pkgファイルへのフルパスを入力する必要があります。

```
pkgadd -d /PKG_LOCATION/jazxfbrs-9.2-1.4.pkg jazxfbrs
```

画面に、次のよう出力されます。

```
Installation in progress. Do not remove the installation media.
Processing package instance <jazxfbrs> from </PKG_LOCATION/jazxfbrs-
9.2-1.4.pkg>
jazxfbrs
Version 9.2-1.4 (x86)
SAS Institiute Inc.
Using </usr/lib> as the package base directory.
## Spooling part 1.
## Processing package information.
## Processing system information.
  2 package pathnames are already properly installed.
## Verifying disk space requirements.
Installing jazxfbrs as <jazxfbrs>
## Installing part 1 of 1.
## Verifying all files in the package.
## Checking Update Directory
Installation of <jazxfbrs> was successful.
```

6. インストールの確認には、シェルのコマンドプロンプトで、次のコマンドを発行します。

```
pkginfo jazxfbrs
```

インストールが成功している場合、次のように表示されます。

```
application jazxfbrs jazxfbrs
```

詳細な情報が必要な場合、以下のコマンドが使用できます。しかし、インストールの確認に必要な以上の情報が表示されます。

```
pkginfo -l jazxfbrs
```

注意： このライブラリへアクセスするのに、Teradata EDWクライアントとしてSAS 9.1.3をインストールしたマシンを使用する場合、SAS 9.1.3 Service Pack4およびHot FixE9BC32を適用していなければなりません。Service Pack 4およびHo Fix E9BC32は、Technical

Support Hot Fixesサイト (<http://ftp.sas.com/techsup/download/hotfix/hotfix.html>) から入手できます。

SAS Formats Library for Teradataの使用に関するドキュメント

新しくインストールしたソフトウェアの使用に関する情報は、『SAS Scoring Accelerator 1.4 for Teradata: User's Guide』 (<http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/scoraccl/index.html>) を参照してください。

第4章：SAS/ACCESS Interface

SAS/ACCESS Interface to MySQLの設定

SAS/ACCESS Interface to MySQLを使用するには、以下のプロダクトが必要です。

- Base SAS
- SAS/ACCESS Interface to MySQL

SAS/ACCESS Interface to MySQLを使用する前に、MySQLクライアントライブラリのパスがPathシステム環境変数に追加されていることを確認してください。MySQLクライアントライブラリは、一般的にC:\mysql\binにあります。

システム環境変数Pathの内容は、使用しているオペレーティングシステムによって、次の手順で確認することができます。

- Windows NTでは、[マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。[環境] タブを選択し、「システム環境変数」のリスト内のPath変数を確認します。
- Windows 2000では、[マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。[詳細設定] タブを選択し、[環境変数] ボタンをクリックします。「システム環境変数」のリスト内のPath変数を確認します。
- Windows XPでは、[スタート] – [コントロールパネル] の順に選択します。[システム] をダブルクリックします。[詳細設定] タブを選択し、[環境変数] ボタンをクリックします。「システム環境変数」のリスト内のPath変数を確認します。

MySQLクライアントバージョン4.1.0以降を使用する場合、クライアントの互換性の問題から、変更を行う必要があります。この変更は、SASMYL SASオプションを更新して、SAS/ACCESS Interface to MySQLがMySQLクライアントのバージョンを特定できるようにするものです。この変更は、SASプログラムの最初またはSASV9.cfgファイルで行うことができます。

SASプログラムでSASMYLオプションを設定するには、SASプログラムの最初の行に次のステートメントを追加します。

```
options set=SASMYL MYWIN417
```

SASV9.cfgファイルは、!sasrootディレクトリにあります。この構成ファイルにSASMYL SASオプションを設定するには、次の行を追加します。

```
-set SASMYL MYWIN417
```

SAS/ACCESS Interface to MySQLの詳細は、『SAS/ACCESS 9.2 for Relational Databases: Reference』のMySQLに関する章を参照してください。

SAS/ACCESS Interface to ODBCの設定

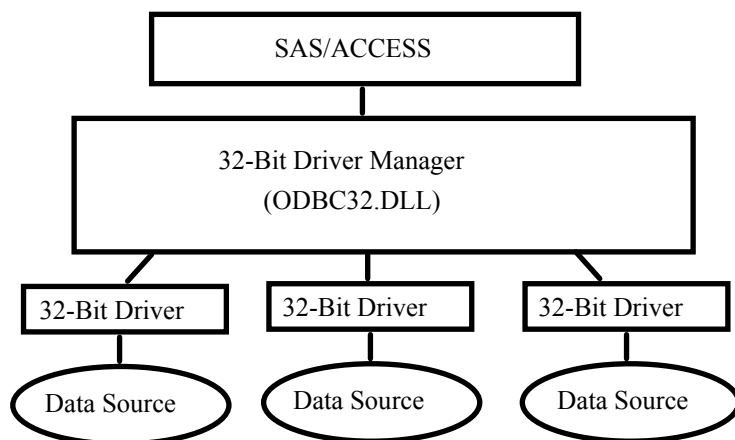
SAS/ACCESS Interface to ODBCを使用するには、次のプロダクトが必要です。

- Base SAS
- SAS/ACCESS Interface to ODBC

- アクセスするデータソース用の32ビットODBCドライバ

ODBCソリューションは、標準のインターフェイスの定義により、さまざまなデータソースを利用することができます。SAS/ACCESS Interface to ODBCはODBCドライバと共に使用することで、さまざまなデータベースにアクセスできます。ODBCドライバはODBC関数の呼び出しを受け付け、結果をSAS/ACCESSに返します。ODBCドライバは、Microsoft社、データベースのベンダー、サードパーティベンダーから入手できます。

SAS/ACCESSを32-bit Windowsで実行するには、32ビットドライバが必要です。SAS/ACCESSは、32ビットドライバマネージャ（ODBC32.DLL）を呼び出し、それを受けて32ビットドライバマネージャは32ビットドライバを呼び出します。次の図にはそのアーキテクチャが描かれています。



ODBCドライバマネージャとODBCデータソースアドミニストレータは、すべてのODBCドライバに付属するMicrosoft社の製品です。ODBCドライバをインストールする際、ODBCドライバマネージャおよびODBCデータソースアドミニストレータが同時にインストールされます。ODBCデータソースアドミニストレータのアイコンは、コントロールパネルの中にあります。また、スタートメニューの中にアイコンがある場合もあります。

ODBCドライバをインストールすると、ODBCデータソースアドミニストレータを使用してデータソースの定義や管理ができるようになります。データソースは、各ODBCドライバと、それによってアクセスされるデータを関連付けます。データソースには、アクセスされるデータとそれに関連するオペレーティングシステム、DBMS、DBMSへのアクセスに使用されるネットワークプラットフォームの情報が含まれています。データソースの設定方法は、ODBCドライバに付属する説明書を参照してください。

SAS/ACCESS Interface to ODBCの詳細は、『SAS/ACCESS 9.2 for Relational Databases: Reference』のODBCに関する章を参照してください。ODBCの詳細は、『Microsoft ODBC 3.0 Programmer's Reference and SDK Guide』を参照してください。

SAS/ACCESS ODBC移行ユーティリティ

SAS/ACCESS ODBC移行ユーティリティは、SAS/ACCESS Interface to ODBCに含まれています。SAS 6で「SAS/ACCESS Interface to AS/400」および「SAS/ACCESS Interface to Microsoft SQL Server」を使用していた場合、このユーティリティによって、SAS 9.2のODBCインターフェイス接続に移行することができます。

AS/400ユーザー

AS/400インターフェイス用ODBC移行ユーティリティを使用するには、IBM Client Access ODBC Driver (32ビット) バージョン3.00.0004以降をインストールする必要があります。AS/400 Client Accessのインストール時に組み込まれたClient Access ODBCドライバのリリースが古い場合は、<ftp://ftp.software.ibm.com>からProgram Temporary Fix (PTF) SF59504以降をダウンロードしてアップデートできます。このClient AccessのService Packは、`/as400/products/clientaccess/win32/v3r1m3/servicepack/`ディレクトリにあります。更新を行うと、ODBCドライバのバージョン3.00.0004以降がインストールされます。

また、データソース名を追加する必要があります。データソース名を追加するには、ODBCデータソースアドミニストレータを使用します。データソース名には「AS400」を使用することをお勧めします。別のデータソース名を使用する場合は、`sasv9.cfg` 内にあるSAS環境変数AS400DSNの値を、指定したデータソース名に変更してください。このとき、データソース名に空白または特殊文字を含めたい場合は、引用符でデータソース名を囲みます。複数のユーザーが同じPCを共有してAS/400データベースにアクセスする場合は、データソース名を「ユーザーDSN」としてではなく、「システムDSN」として追加してください。

以下の手順を実行し、AS/400データベースにアクセスするためのデータソースを作成してください。

1. ODBCデータソースアドミニストレータ (ODBC Data Source Administrator) を起動します。
[コントロール パネル]、または次に示すように [スタート] メニューから起動します。
[スタート] - [設定] - [コントロールパネル] (Windows 200またはXP上ではさらに [管理ツール] を選択) - [データソース (ODBC)] を選択します。
2. 1人のユーザーの場合は [ユーザーDSN]、複数のユーザーの場合は [システムDSN] タブをクリックします。
3. [追加] ボタンをクリックし、表示されたウィンドウから [Client Access ODBC driver (32-bit)] を選択します。
4. [完了] をクリックしてください。[Setup] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. [General] タブをクリックし、[Data Source Name] フィールドに「AS400」と入力します。別の名前を入力してもかまいませんが、その場合、SAS環境変数AS400DSNの値を、入力した名前に設定します。
6. プルダウンメニューから、このデータソースを使用して接続するAS/400システムを選択します。
7. このデータソースが接続に使用するメソッドを変更するには、[Connection Options] をクリックします。適切なオプションを選択し、[OK] をクリックします。
8. [Server] タブをクリックします。デフォルトのライブラリはQGPLです。この指定を変更するには、[Default Libraries] フィールドから名前を削除し、新しく使用するライブラリ名を入力するか空白のまま残します。
9. [Format] タブをクリックします。[Naming Convention] プルダウンリストから [System naming convention (*SYS)] を選択します。

10. [Package(s)] タブをクリックします。[Enable Extended Dynamic Support] ボックスのチェックを外します。
11. [OK] をクリックし、[Setup] ウィンドウを閉じます。

Microsoft SQL Serverユーザー

ODBC移行ユーティリティを使用してSAS 6ビューを読み込み、Windows上の「SAS/ACCESS Interface to SYBASE and SQL Server」で作成されたMicrosoftSQL Serverデータにアクセスすることができます。また、ODBC移行ユーティリティを使用して、Windows上でSAS/ACCESS Interface to ODBCへ移行することもできます。

注意： ODBC移行ユーティリティは、Microsoft SQL Serverでデータにアクセスするビューのみに適用されます。SYBASE SQL Serverには適用されません。

ODBC移行ユーティリティを使用するには、Microsoft社のMicrosoft SQL Server ODBC Driver (32ビット)が必要です。このドライバは、Microsoft Data Access Components (MDAC) の一部としてインストールされます。

必須ではありませんが、データソース名を追加することをお勧めします。データソース名を追加するには、ODBCデータソースアドミニストレータを使用します。また、sasv9.cfgに、追加したデータソース名を値としたSAS環境変数MSSQLDSNを設定する必要があります。このとき、データソース名に空白または特殊文字を含めたい場合は、引用符でデータソース名を囲みます。複数のユーザーが同じPCを共有してMicrosoft SQL Serverデータベースにアクセスする場合は、データソース名を「ユーザーDSN」ではなく、「システムDSN」として追加してください。

以下の手順を実行し、Microsoft SQL Serverデータベースにアクセスするためのデータソースを作成してください。

1. ODBCデータソースアドミニストレータ (ODBC Data Source Administrator) を [コントロールパネル]、または [スタート] メニューから起動します。
2. 1人のユーザーの場合は [ユーザーDSN]、複数のユーザーの場合は [システムDSN] タブをクリックします。
3. [追加] ボタンをクリックし、表示されたウィンドウから [SQL Server] を選択します。
4. [名前] フィールドに名前を入力します。ここに入力した名前は、SAS環境変数MSSQLDSNの値と一致する必要があります。
5. [サーバー] フィールドで、SQLクライアント設定ユーティリティを使用して定義したサーバー名を選択または入力します。
6. [次へ] をクリックします。ラジオボタンをクリックしてログイン方法を選択します。必要に応じて、「ログインID」と「パスワード」を入力します。
7. [次へ] をクリックします。接続が初期化されます。接続が完了したら、手順8に進んでください。接続に失敗した場合は、その理由を示すエラーメッセージが表示されます。
8. 接続の完了後、デフォルトのデータベースが変更されます。[次へ] をクリックし、画面を閉じます。

9. デフォルトのデータベースを変更した後、その他のオプションを選択できます。必要に応じてオプションを選択し、[完了]をクリックします。
10. [データソースのテスト]をクリックします。テストの完了を知らせるメッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。もう1つのメッセージが表示されるので、それに対し[OK]をクリックします。

注意： SAS 9.2では、Microsoft Data Access Components (MDAC) は、SAS/ACCESS Interface to ODBCをインストールすると自動的にインストールされます。

SAS/ACCESS Interface to Oracleの設定

SAS/ACCESS Interface to Oracleを使用するには、次のプロダクトが必要です。

- Base SAS
- SAS/ACCESS Interface to Oracle
- Oracleクライアント/サーバー リリース9i以降

Oracleのクライアント/サーバーのインストールが完了したら、PATH環境変数にOracleクライアントライブラリへのパスが設定されているかを確認してください。Oracleライブラリは、通常ORACLE_HOME/binディレクトリにあります。PATH環境変数にORACLE_HOME/binが設定されていない場合、次のようなエラーが表示されます。

```
ERROR: The SAS/ACCESS Interface to ORACLE cannot be loaded.
ERROR: Image SASORA found but not loadable.
```

SAS/ACCESS Interface to Oracleの詳細は、『SAS/ACCESS 9.2 for Relational Databases: Reference』のOracleに関する章を参照してください。

SAS/ACCESS Interface to SYBASEの設定

SAS 9.2では、システム管理者またはユーザーが、ターゲットサーバー上にSybaseストアプロシジャをインストールする必要があります。!SASROOT¥access¥miscディレクトリに含まれている次の2つのファイルを参照して、インストールを行ってください。

- sas-spcp.txtはテキストファイルで、インストール方法について説明しています。
- sas-spdf.txtは、実際のストアプロシジャのスク립トです。この作業では、Sybaseのユーティリティdefncopyおよびisqlを使用します。

SAS/ACCESS Interface to Teradataの設定

SAS/ACCESS Interface to Teradataを使用する前に、Teradata BTEQユーティリティを使用してTeradataアカウントへロギングし、接続できるかどうか確認します。BTEQが使用できない場合、ホワイトペーパー『SAS/ACCESS to Teradata』に従って接続を確立してください。このドキュメントは、<http://support.sas.com/resources/papers/teradata.pdf>から入手できます。

BTEQがTeradataサーバーへの接続に失敗した場合、PC上のhostsファイルにエントリを追加して、Teradataサーバーのネットワークアドレスを指定する必要があります。通常、hostsファイルにdbccop1エントリを追加します。エントリの詳細は、『Teradata Client for Windows Installation Guide』を参照してください。

FastExport

大容量テーブルの読み込みを最適化するには、SAS/ACCESSでFastExportを実行します。FastExportを実行するには、SASをインストールしたシステム上にTeradata FastExportユーティリティがインストールされている必要があります。また、システム変数Pathを修正しなければなりません。Path変数の最後に、次の2つのディレクトリパスを追加してください。

1. fexp.exe (FastExportユーティリティ) のあるディレクトリ。通常は、C:\Program Files\NCR\Teradata Client\binです。
2. sasaxsm.dllのあるディレクトリ (通常、sasaxsm.dllはSASプロダクトが格納されている!sasroot\core\sasextディレクトリにあります)。

システム環境変数Pathの内容は、使用しているオペレーティングシステムによって、次の手順で確認することができます。

- Windows NTでは、[マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。[環境] タブを選択すると、「システム環境変数」のリスト内にPathが存在します。
- Windows 2000では、[マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。[詳細設定] タブを選択し、[環境変数] ボタンをクリックします。「システム環境変数」のリスト内にPathが存在します。
- Windows XPでは、[スタート] - [コントロールパネル] の順に選択します。[システム] をダブルクリックします。[詳細設定] タブを選択し、[環境変数] ボタンをクリックします。「システム環境変数」のリスト内にPathが存在します。

FastExportユーティリティは必須ではありません。FastExportユーティリティを使用しなくても、SAS/ACCESSによって大容量テーブルを効率よく読み込むことができます。詳細は、『SAS/ACCESS to Teradata』の「DBSLICEPARM option」を参照してください。Teradata FastExportユーティリティを入手したい方は、テラデータ株式会社にご連絡ください。

SAS/ACCESS Interface to Teradataについての詳細は、『SAS/ACCESS 9.2 for Relational Databases: Reference』のTeradataに関する章と、ホワイトペーパー『SAS/ACCESS to Teradata』を参照してください。ホワイトペーパーは<http://support.sas.com/resources/papers/teradata.pdf>から入手できます。

MultiLoad

SAS/ACCESSでは、MultiLoadを使用して、空ではないテーブルに大容量のデータをロードできます。MultiLoadを実行するには、SASをインストールしたシステム上にTeradata MultiLoadユーティリティがインストールされている必要があります。また、システム変数Pathを修正しなければなりません。Path変数の最後に、次の2つのディレクトリパスを追加してください。

1. mload.exe (MultiLoadユーティリティ) が存在するディレクトリを指定します。通常は、C:\Program Files\NCR\Teradata Client\binになります。
2. sasmlam.dllおよびsasmlne.dll が存在するディレクトリを指定します (sasmlam.dll およびsasmlne.dllは、通常は!sasroot\core\sasextにあります)。

システム環境変数Pathの内容は、使用しているオペレーティングシステムによって、次の手順で確認することができます。

- Windows NTでは、[マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。[環境] タブを選択すると、「システム環境変数」のリスト内にPathが存在します。
- Windows 2000では、[マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。[詳細設定] タブを選択し、[環境変数] ボタンをクリックします。「システム環境変数」のリスト内にPathが存在します。
- Windows XPでは、[スタート] – [コントロールパネル] の順に選択します。[システム] をダブルクリックします。[詳細設定] タブを選択し、[環境変数] ボタンをクリックします。「システム環境変数」のリスト内にPathが存在します。

MultiLoadユーティリティは必須ではありません。SAS/ACCESSでは、テーブルを読み込む他の方法も提供しています。詳細は、『SAS/ACCESS to Teradata』の「MULTISTMT option」を参照してください。Teradata MultiLoadユーティリティを入手したい方は、テラデータ株式会社にご連絡ください。

第5章：SAS/ASSISTの設定

この章では、オプションのマスタープロファイルをSAS/ASSISTに追加する方法について説明します。マスタープロファイルを使用すると、デフォルト設定を変更できます。これを使用して、SAS/ASSISTの設定をカスタマイズすることができます。また、マスタープロファイルを使用して、すべてのSAS/ASSISTユーザーのプロファイルオプションをまとめて設定することができます。プロファイルオプションの詳細は、『SAS/ASSIST Software Administrator's Guide』を参照してください。

マスタープロファイルの追加

以下の手順を実行して、SAS/ASSISTにマスタープロファイルを追加してください。

1. SAS/ASSISTのすべてのユーザーに読み込み権限のあるディレクトリを作成して、マスタープロファイルの場所を指定します。

このディレクトリに書き込み権限のあるすべてのユーザーが、SAS/ASSISTのマスタープロファイルへ書き込むことができます。システムの命名規則に従って、ディレクトリ名を指定してください。この新しいディレクトリ名は、SASHELPライブラリのエントリに保存されなければなりません。したがって、SASHELPライブラリへの書き込み権限も必要となります。

[エディタ] ウィンドウの1行目に、マスタープロファイルディレクトリの物理パス名を入力します。Saveコマンドを使用して、これをSASHELP.QASSISTカタログに保存します。例えば、次のようになります。

```
SAVE SASHELP.QASSIST.PARMS.SOURCE
00001 S:¥SAS¥ASSIST¥PARMS
00002
00003
```

マスタープロファイルの場所が、SAS/ASSISTによって認識されるようになります。

2. マスタープロファイルを作成します。

SAS/ASSISTを最初に起動した際、SASHELP.QASSIST.PARMS.SOURCEに存在する物理パス名が保存されていて、SAS/ASSISTを起動したユーザーにその物理パス名への書き込み権限がある場合、マスタープロファイルが作成されます。

3. SAS/ASSISTを起動し、[設定] - [プロファイル] - [マスター/グループ] を選択して、マスタープロファイルをカスタマイズします。

マスタープロファイルが保存されているSASライブラリの書き込み権限を持っていると、デフォルトの設定を変更することができます。初めてSAS/ASSISTを使用するユーザーは、この設定をデフォルトとして使用するようになります。

注意： [状況] に「R」と入力して値を制限した場合、ユーザーはその設定を変更できません。

SAS/ASSISTは、ワークプレイス（カスケード）メニューとブロックメニューの2つのスタイルで実行できます。ブロックメニューには、新しいスタイルと古いスタイルがあります。これらは、以下のプロファイルオプションで設定できます。

ワークプレイス（カスケード）メニューで実行する場合：

ASSISTのスタイル： Workplace

新しいスタイルのブロックメニューで実行する場合：

ASSISTのスタイル： Block Menu

終了時の選択の保存： Yes

メニューのスタイル： New

古いスタイルのブロックメニューで実行する場合：

ASSISTのスタイル： Block Menu

終了時の選択の保存： Yes

メニューのスタイル： Old

マスタープロファイルにデフォルト値を設定すると、ユーザーがSAS/ASSISTで使用するスタイル（新しいスタイル、または古いスタイル）を管理することができます。その他にも、多数のプロファイルオプションが存在します。プロファイルオプションの詳細は、『SAS/ASSIST Software Administrator's Guide』を参照してください。

4. グループプロファイルを作成します。

マスタープロファイルから、グループのユーザーが異なる設定を持つグループプロファイルを作成することができます。マスタープロファイルは、グループプロファイルと、ユーザーが任意のグループのメンバーでない場合のユーザープロファイルを管理します。オプションの状況が「R」になっている場合は、すべてのユーザーはマスタープロファイルによって間接的に管理されます。

[設定] - [プロファイル] - [マスター/グループ] を選択し、画面上部のメニューバーから [ツール] - [グループプロファイルの作成] を選択します。ユーザーをグループプロファイルに追加するには、[ツール] - [ユーザーグループの更新] を選択します。デフォルトでは、ユーザーIDはマクロ変数&SYSJOBIDに保存されます。この値は、マスタープロファイルのオプションの「ユーザーID」に設定されます（オプションタイプはシステム管理）。ご利用の環境で「ユーザーID」を他の変数に割り当てる場合は、この値を変更してください。値が&で始まる場合は、マクロ変数を表します。その他の場合は、SAS 9.2が起動する前に設定するSAS環境変数です。

第6章：SAS/CONNECTの設定

Windows版SAS 9.2 Foundationでサポートしているアクセス方式は、TCP/IPです。その他のシステム環境でサポートしているアクセス方式の詳細は、『Communications Access Methods for SAS/CONNECT 9.2 and SAS/SHARE 9.2』を参照してください。このドキュメントは、<http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/>から参照できます。

注意： Windows環境では、APPCアクセス方式はすでにサポートしていません。

SAS/CONNECTスクリプトファイルの保存と配置

SAS/CONNECTには、サンプルスクリプトファイルがいくつか用意されています。SAS/CONNECTは、これらのスクリプトファイルを使用して、リモートSASセッションとの接続を行います。

SASSCRIPTシステムオプションには、SAS/CONNECTスクリプトファイルの場所が設定されています。SASSCRIPTシステムオプションは、SAS/ASSISTで使用します。また、ユーザー作成のSCLプログラムでも使用できます。

Windows版SASでは、スクリプトファイルがデフォルトで!SASROOT¥CONNECT¥SASLINKディレクトリに保存されています。SAS/CONNECTがインストールされると、次の1行がSASV9.CFGファイルに追加されます。

```
-SASSCRIPT !SASROOT¥CONNECT¥SASLINK
```

スクリプトファイルを他のディレクトリに移動する場合は、SASV9.CFGファイルを編集してSASSCRIPTシステムオプションに新しいディレクトリ名を指定してください。また、DMSEXPモードでメニューバーから、[ツール] - [オプション] - [システム] - [通信] - [ネットワークと暗号化] を選択しても、このオプションを変更することができます。

TCP/IP

Windows版SAS 9.2でサポートしているアクセス方式は、TCP/IPです。SAS/CONNECTでは、Microsoft社のWindows TCP/IPシステムドライバをサポートします。

SAS Windowsスポーナプログラムの設定

スポーナプログラムは、!SASROOTディレクトリにあり、!SASROOTディレクトリからいつでも手動で実行することができます。installオプションを使用してSPAWNER.EXEを実行すると、スポーナプログラムをWindowsサービスとして実行できます。デフォルトでは、スポーナプログラムがsecurityオプションを使用して実行されるようにインストールされます。Windowsスポーナプログラムと、サポートされるオプションの詳細は、『Communications Access Methods for SAS/CONNECT 9.2 and SAS/SHARE 9.2』を参照してください。

注意： 以前のバージョンのSASに添付されているスポーナをサービスとして登録したままSAS 9.2にアップグレードし、そのまま実行すると問題が発生する可能性があります。既存のスポーナを停止し削除してください。その後、SAS 9.2 CONNECTスポーナをWindowsサービスとしてインストールしてください。

デフォルトでは、スポーナプログラムがWindowsサービスとしてインストールされている場合、スポーナを実行するのに必要なすべてのユーザー権限を持ったローカルシステムユーザーIDで実

行されます。スポーナプログラムをWindowsサービスとしてインストールしない（コマンドプロンプトから実行する）場合、スポーナプログラムを起動するWindowsユーザーIDはローカルのAdministratorで、以下のユーザー権限を持っている必要があります。

- オペレーティングシステムの一部として機能
- 走査チェックのバイパス（デフォルトはEveryone）
- クォータの増加
- プロセスレベルトークンの置き換え
- ローカル ログオン（デフォルトはEveryone）

サインオン時に指定するWindowsのユーザーIDには、「バッチジョブとしてログオン」のユーザー権限のみが必要です。

第7章 : SAS/IntrNetの設定

この章では、SAS/IntrNetのインストール関連について説明します。この情報は、SAS/IntrNetコンポーネントのインストール、設定、テストについて有益な情報を含んでいます。

SAS Deployment Wizardを使用したSASソフトウェアのインストールの手順については、この章では触れていません（他のドキュメントで説明しています）。また、Webサーバーのインストールについては、システム管理者の役割のため、SASのドキュメントでは解説していません。

SAS/IntrNetを、この章で説明する手順でインストール、設定、テストしたら、最新のSAS/IntrNetのオンラインドキュメント（<http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/intrnet/index.html>）を参照してください。このWebサイトの「What's New」には、プロダクトまたはドキュメントの最新の変更が掲載されています。

概要

すべてのSAS/IntrNetのインストールは、2つのコンポーネントから構成されています。

1. SAS/IntrNetサーバー（アプリケーションサーバー）。これは、SAS Foundationがインストールされる場所です。
2. CGI Toolsツール（ブローカー）。これは、broker.cfgファイルとそれをサポートするファイルがインストールされる場所です。

SAS/IntrNetをインストールする際、次の2つのインストールおよび設定方法から選択してください。

- Type A : SAS/IntrNetサーバーおよびCGI Toolsコンポーネントの両方を、同じマシンにインストールします。Webサーバーは、SASをインストールする前にインストールしておかなければなりません。
- Type B : SAS/IntrNetサーバーコンポーネントを1台のマシンに、CGI Toolsコンポーネントをまた別のマシンにインストールします。Webサーバーは、CGI Toolsをインストールするマシンに、事前にインストールしておかなければなりません。

Type AとType Bは、インストール手順が異なります。

Type Aインストール手順	Type Bインストール手順
SAS/IntrNetと同じサーバー上に、Webサーバーソフトウェア（IIS、Apacheなど）をインストールしていることを確認します。	CGI Toolsをインストールするマシンに、Webサーバーソフトウェア（IIS、Apache）をインストールしていることを確認します。
SASプロダクトをインストールします。[インストールするプロダクトの選択] ダイアログで、「CGI Tools for the Web Server」および「SAS/GRAPH Java Applets」を選択します。	アプリケーションサーバーのマシン上で、SASのインストールを開始します。インストールするプロダクトの選択] ダイアログで、「CGI Tools for the Web Server」の選択を外します。
	Webサーバーのマシン上で、SASのインストールを開始します。[インストールするプロダクトの選択] ダイアログで、「CGI Tools for the Web Server」および「SAS/GRAPH Java Applets」以外のすべてのプロダクトの選択を外します。 オプションとして、「IntrNet Monitor」または「Connect Drivers」を選択することができます。
ブローカーをテストします。	
ソケットサービスを設定します。	
ソケットサービスを開始します。	
ソケットサービスをテストします。	

Webサーバーのインストールに関しては、Webサーバーのドキュメントを参照してください。

SAS/IntrNetのインストールと設定

Webサーバーのインストール

SASソフトウェアのインストールの開始方法は、『クイックスタートガイド（QuickStart Guide）』を参照してください。

SASソフトウェアのインストール

Type Aインストール（上記の「概要」で説明しています）を行う場合、SASソフトウェアのインストールを行う前にWebサーバーがインストールされていることを確認する必要があります。
[インストールするプロダクトの選択] ダイアログで、「CGI Tools for the Web Server」および「SAS/GRAPH Java Applets」を選択します。

Type Bインストールを行う場合、以下を両方とも実行してください。

- SASシステム側にSASソフトウェアをインストールします。その際、[インストールするプロダクトの選択] ダイアログで、「CGI Tools for the Web Server」および「SAS/GRAPH Java Applets」の選択を外します。
- WebサーバーにSASソフトウェアをインストールします。その際、[インストールするプロダクトの選択] ダイアログで、「CGI Tools for the Web Server」および「SAS/GRAPH Java Applets」を選択します。「SAS/IntrNet Monitor」および「SAS/CONNECTED Driver for Java」の選択はオプションです。その他の選択は、すべて外します。

[CGI Tools Installation] のダイアログ

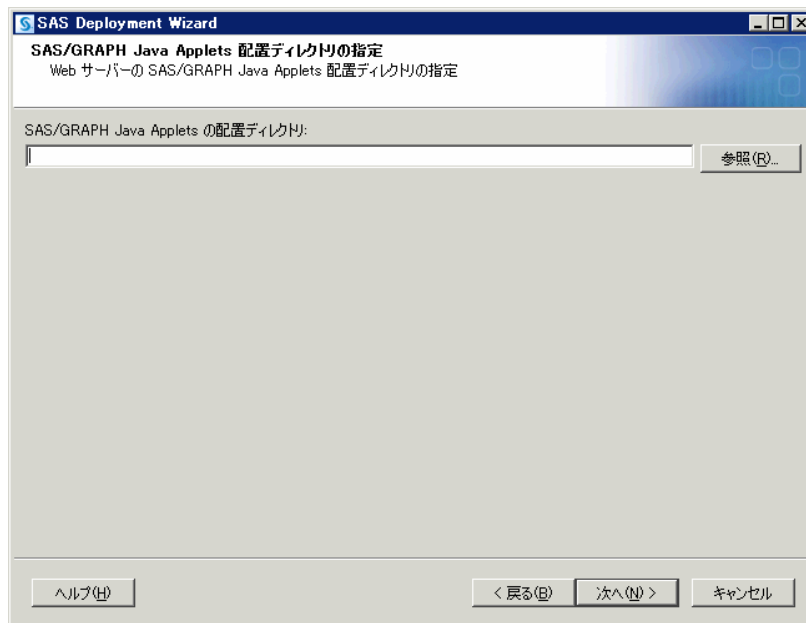
CGI Tools for the Web ServerおよびSAS/GRAPH Java Appletsのインストールのためのウィンドウが表示されます。各フィールドについての詳細は、[ヘルプ] を参照してください。

以下の各画面では、エントリは一般的な例を示しています。使用している環境によって、各エントリをカスタマイズしてください。

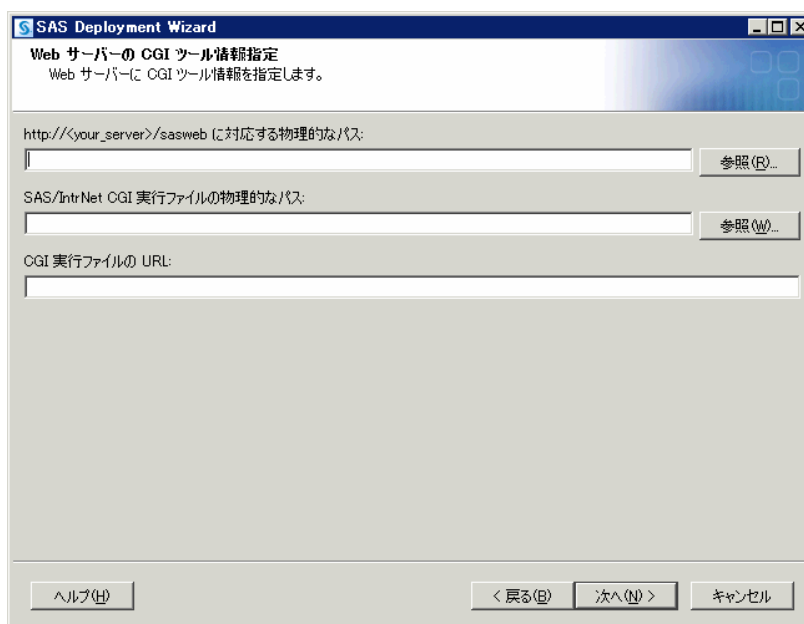
SAS/GRAPH Java Appletsの配置ディレクトリ :

SAS/GRAPH Java Appletのインストール場所を指定します。このアプレットは、有効なフォルダならどこにでもインストールすることができます。

この場所は、Webサーバー上の/sasweb/graphディレクトリにグラフアプレットをコピーするCGI Toolsのインストールで使用します。



一般的なWebサーバーにおける通常のエントリ例を、以下に示します。使用しているWebサーバー環境に合わせて、エントリをカスタマイズしてください。これらのフィールドは、Webサーバーがインストールされている場所をSASに通知します。



http://<your_server>/saswebに対する物理的なパス :

IIS : C:\¥Inetpub¥wwwroot¥sasweb

Apache (Windows):C:\¥program files¥Apache Software Foundation¥Apache2.2¥htdocs¥sasweb

Apache(UNIX): /usr/local/apache2/htdocs/sasweb

SAS/IntrNet CGI実行ファイルの物理的なパス :

IIS : C:\¥Inetpub¥scripts

Apache (Windows):C:\¥program files¥Apache Software Foundation¥Apache2.2¥cgi-bin

Apache (UNIX) : /usr/local/apache2/cgi-bin

CGI実行ファイルのURL :

IIS : http://<web_servername>/scripts

例 : http://abcserver.comp.com/scripts

Apache (Windows) : http://<web_servername>/cgi-bin

例 : http://abcserver.comp.com/cgi-bin

Apache (UNIX) : http://<web_servername>/cgi-bin

例 : http://abcserver.comp.com/cgi-bin

このダイアログのエントリは、broker.cfgファイルに追加されます。broker.cfgはテキストファイルなので、インストールの終了後に修正することができます。

サーバー管理者名 :

管理者の名前を指定します (例 : John Doe) 。この項目はオプションです。

サーバー管理者の電子メールアドレス :

管理者の電子メールアドレスを指定します (例 : NetAdmin@comp.com) 。この項目はオプションです。

アプリケーションサーバーホストのDNS名またはIPアドレス：

SAS Foundationが置かれているアプリケーションサーバーのマシン名またはIPアドレスを指定します。

アプリケーションサーバーのTCPポート番号：

通常のデフォルトのポート番号は5001です。または任意の有効なポート番号を256～65535の間で指定できます。

Jconnectを使用していないのなら、[次へ] をクリックします。Jconnectを使用している場合、使用しているサイトの有効な値を入力してください。

異なるオペレーティングシステムのマシンへのCGI ToolsおよびSAS Foundationのインストール

SAS Foundationの動作しているオペレーティングシステムが、CGI Toolsの動作しているオペレーティングシステムとは異なる場合があります。例えば、SAS FoundationはWindows上に、CGI ToolsはUNIX上にインストールされている場合などがあります。SAS Deployment WizardによるCGI Toolsのインストールは、インストール先を判別し、そのオペレーティングシステム用のソフトウェアをインストールします。

SASソフトウェアデポを、目的のCGI Toolsをインストールするシステム上で利用可能にするには、2つの方法があります。使用しているサイトで利用可能な方法を選択してください。

- リモートシステム上のSASソフトウェアデポからセットアップを起動します。2つのシステムを接続するには、NFSまたはSAMBAなどのクロスプラットフォームのファイルアクセス方式を使用する必要があります。
- SAS Deployment Wizardを使用して、既存のSASソフトウェアデポからメディアを作成し、ホストマシンでメディアを使用します。この方法の詳細は、『SAS Deployment Wizard ユーザーガイド (SAS Deployment Wizard Users Guide)』を参照してください。このドキュメントはインストールセンター (<http://www.sas.com/japan/service/documentation/installcenter/92/index.html>) にあります。

注意： SAS/IntrNetを実行するには、SAS FoundationとCGI Toolsの間を、これらのコンポーネントがインストールされるオペレーティングシステムにかかわらず、TCP/IPで接続する必要があります。

Webサーバーのテスト

Webサーバーが作動しているかどうか判断するには、Webサーバーを実行しているマシンのWebブラウザを起動し、「http://localhost」と入力してください。Webページが表示されれば、Webサーバーが動作していることになります。

Webページが表示されない場合、先に進む前に、Webサーバーが正しくインストールされているかを確認してください。

アプリケーションブローカー (Application Broker) のテスト

CGIツールが正確にインストールされbroker.cfgファイルにアクセスできることを確認するには、Webブラウザで以下のURLを指定します。

Windows:

IIS : http://<web_servername>/scripts/broker.exe
 Apache: http://<web_servername>/cgi-bin/broker.exe

その他のオペレーティングシステム:

http://your_webserver/cgi-bin/broker

your_webserverを、使用しているWebサーバー名に置き換えてください。CGI Toolsを異なるディレクトリにインストールした場合、URLも変更する必要があります。下記のようなWebページが表示されます。

```
SAS/IntrNet Application Dispatcher
Application Broker Version 9.2 (Build 1494)
Application Dispatcher Administration
SAS/IntrNet Samples
SAS/IntrNet Documentation - requires Internet access
```

このWebページが表示されない場合、先に進む前に、Webサーバーが正しくインストールされているのかを調べなければなりません。アプリケーションブローカー (broker.exeおよびbroker.cfgファイル) をインストールしたディレクトリで、WebサーバーがCGIを実行できることを確認してください。このディレクトリは、上記のCGI Toolsのインストールの際に、「SAS/IntrNet CGI実行ファイルのパス名」に指定したパスによって決定されています。

デフォルトのアプリケーションディスパッチャーサービス (Application Dispatcher Service) の設定

SAS/IntrNetと共に提供されているサンプルプログラムを実行するには、デフォルトのアプリケーションディスパッチャーサービスを作成する必要があります。SAS/IntrNet Configuration Utility (inetcfg) で、デフォルトのサービスを作成してください。サービスは、Windows上で、[スタート]メニューからConfiguration Utilityを起動して作成できます。

次の手順を実行して、デフォルトのサービスを作成してください。

1. [スタート] メニューから、[プログラム (XPではすべてのプログラム)] ➡ [SAS] ➡ [IntrNet] ➡ [新規SAS 9.2サービスの作成] を選択します。
2. SAS/IntrNet Configuration Utilityの起動画面が表示されます。表示された内容に目を通し、[Next] をクリックします。
3. [Create a Socket Service] を選択し、[Next] をクリックします。
4. 新しいサービスの名前として「default」と入力します。[Next] をクリックします。
5. Configuration Utilityのサービスディレクトリであるコントロールファイルを置くディレクトリを指定してください。デフォルトの場所 (SASROOTの階層下のディレクトリ) を推奨します。[Next] をクリックします。
6. デフォルトのアプリケーションディスペッチャーサービスに設定するTCP/IPポート番号を入力します。[Next] をクリックします。
7. デフォルトのサービスでは、パスワードは必要ありません。このサービスを実際に運用する場合、後から管理者パスワードを設定することができます。[Next] をクリックします。
8. このサービスに指定したすべての情報が、[Create Service] ウィンドウに表示されます。この情報が正しいことを確認し、[Next] をクリックしてサービスを作成します。
9. [Next] を選択し、さらに [Finish] を選択してデフォルトのサービスの設定を終了します。
10. [スタート] メニューから、[プログラム (XPではすべてのプログラム)] ➡ [SAS] ➡ [IntrNet] ➡ [default Service] ➡ [Start Interactively] を選択します。デフォルトのアプリケーションサーバーが実行されます。

デフォルトサービスの開始と停止

上記で述べたように、[スタート] メニューから、[プログラム (XPではすべてのプログラム)] ➡ [SAS] ➡ [IntrNet] ➡ [default Service] ➡ [Start Interactively] を選択します。デフォルトのアプリケーションサーバーが実行されます。

ソケットサービス (Socket Service) のテスト

1. サービスがインストールされ正しく動作しているかを、Webブラウザに次のURLを指定することによって確認してください。

Windows:

```
IIS:      http://<web_servername>/scripts/broker.exe
Apache:   http://<web_servername>/cgi-bin/broker.exe
```

その他のオペレーティングシステム:

```
http://your_webserver/cgi-bin/broker
```

your_webserverを、使用しているWebサーバー名に置き換えてください。アプリケーションブローカーを異なるディレクトリにインストールした場合、URLも変更する必要があります。次のようなWebページが表示されます。


```
SAS/IntrNet Application Dispatcher
Application Broker Version 9.2 (Build 1494)
Application Dispatcher Administration
SAS/IntrNet Samples
SAS/IntrNet Documentation - requires Internet access
```

1. 「Application Dispatcher Administration」をクリックして、アプリケーションブローカーが broker.cfgを読み込めるかどうか確認してください。「Application Dispatcher Services」の Webページが表示されます。
2. アプリケーションサーバーとWebサーバーの接続を確認してください。「Application Dispatcher Administration」をクリックし、それから「SocketService default」の下の「ping」をクリックしてください。pingが成功すると、次のように表示されます。

```
Ping. The Application Server <hostname>:<port_number> is
functioning properly.
```

3. 最後のテストとして、次のURLをWebブラウザに入力してください。

Windows :

IIS :

```
http://your_webserver/scripts/broker.exe?_service=default&_program
=sample.webhello.sas
```

Apache:

```
http://your_webserver/cgi-bin/broker.exe?_service=default&_program
=sample.webhello.sas
```

その他のオペレーティングシステム :

```
http://your_webserver/cgi-bin/broker?_service=default&_program= sa
mple.webhello.sas
```

テストが成功すると、Webブラウザに「Hello World!」と表示されます。表示されない場合、デバックオプションを使用してログを作成します。

Windows :

IIS :

```
http://your_webserver/scripts/broker.exe?_service=default&_program
=sample.webhello.sas&_debug=131
```

Apache:

```
http://your_webserver/cgi-bin/broker.exe?_service=default&_program
=sample.webhello.sas&_debug=131
```

その他のオペレーティングシステム :

```
http://yourWebserver/cgi-
bin/broker?_service=default&_program=sample.webhello.sas&_debug=13
1
```

Webブラウザに表示されたログを保存し、SASテクニカルサポートにお問い合わせください。

追加サービスの設定

この章では、単一のデフォルトのアプリケーションディスパッチャーサービスの設定についてのみ解説しました。セキュリティまたはパフォーマンスの必要性によるアプリケーションの分離、よりスケーラブルなサーバーの実装など、追加サービスの設定を要求される場合があります。追加のサービスの設定、Load Managerの使用、プールサービスの追加に関する詳細は、『SAS/IntrNet: Application Dispatcher』（<http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/intnet/index.html>）の「Using Services」を参照してください。

第8章：SAS/SECUREクライアントコンポーネントのインストール

SAS/SECUREは、非SASクライアントアプリケーションが、暗号化された安全な環境でSASサーバーと通信するのに使用するクライアントコンポーネントを含んでいます。非SASクライアントと、SAS/SECUREライセンスを持つSASサーバー間の通信を暗号化するには、クライアントマシンに、SAS/SECUREクライアントコンポーネントをインストールする必要があります。SAS/SECUREクライアントコンポーネントは、SAS Software Navigatorを使用してSAS/SECUREフォルダからインストールします。

注意： SASをクライアントとしてインストールしている場合、このインストールは必要ありません。SASは、インストール処理の一部として必要に応じてコンポーネントをインストールします。

SAS/SECURE for Windows Clients

Windowsクライアントに必要なSAS/SECUREコンポーネントは、SAS Software Navigatorを実行してSAS/SECURE Windows Client Componentにアクセスすることによってインストールされます。このフォルダにあるsecwin.exeは、IOM Bridge for COMがCryptoAPIアルゴリズムを使用するのに必要なファイルをインストールします。

SAS/SECURE for Java Clients

SAS/SECURE Components for Java Clientsは、Javaアプリケーションの暗号化をサポートします。以下のコンポーネントを使用して作成されたアプリケーションにおいて、暗号化機能を使用できます。

- SAS/SHARE driver for JDBC
- SAS/CONNECT driver for Java
- IOM Bridge for Java

Javaクライアントに必要なSAS/SECUREコンポーネントは、SAS Software Navigatorを実行してSAS/SECURE Java Componentにアクセスすることによってインストールされます。このフォルダは、JavaクライアントがCryptoAPIアルゴリズムを使用可能にする2つのJARファイルを含んでいます。

- sas.rutil.jar – 実行しているクライアントを起動する場所にコピーする必要があります。
- sas.core.jar – Javaクライアントを利用している場合、すでにインストールされているので必要ありません。

sas.rutil.jarは、以下の各プロダクトをインストールした場所にコピーしなければなりません。下記に、それぞれのデフォルトのインストール場所を示します。

- SAS MC (SAS管理コンソール) : <SAS_HOME>\¥SASManagementConsole¥9.2
- OLAP Cube Studio : <SAS_HOME>\¥SASOlapCubeStudio¥9.2
- SAS Data Integration Studio : <SAS_HOME>\¥SASETLStudio¥9.2
- SAS Information Map Studio : <SAS_HOME>\¥SASInformationMapStudio¥1.0

これらの例の<SAS_HOME>は、SAS Software Navigatorによって指定されます（デフォルトの場所は、C:\Program Files\SASです）。

必要とするところにコピーした後、sasproprietary以外のアルゴリズムを使用することができます。

第9章：SAS/SHAREの設定

この章では、SAS/SHAREでTCP/IPアクセス方式を使用する方法について説明します。Windows版SAS 9.2でサポートしているアクセス方式は、TCP/IPです。その他のシステムに対応するアクセス方式については、Webサイト <http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/> にある『Communications Access Methods for SAS/CONNECT 9.2 and SAS/SHARE 9.2』を参照してください。

TCP/IPアクセス方式の使用

SAS/SHAREサーバーとユーザー間の通信は、TCP/IPアクセス方式によって処理されます。TCP/IPアクセス方式は、SAS 9.2の一部として、下層の通信ソフトウェアを利用してメッセージとデータを交換します。TCP/IPアクセス方式として、SAS/SHAREでは、Microsoft社のWindows TCP/IPネットワークプロトコルをサポートします。

注意： Windows環境では、APPCアクセス方式はすでにサポートしていません。

TCP/IPアクセス方式を使用するには、SAS/SHAREサーバーまたはユーザーが実行する各ワークステーション上に、TCP/IPアクセス方式をサポートするソフトウェアがインストールされている必要があります。

TCP/IPアクセス方式のシステム設定

SAS/SHAREでは、Microsoft社のWindows TCP/IPシステムドライバをサポートします。

TCP/IP SERVICESファイルにサーバー名を定義するには、以下の手順を実行してください。

1. SERVICESファイルを探します。

このファイルは%windowsまたは%winntの階層下にあります。どちらにあるかはオペレーティングシステムによって異なります。例えば、Windows 2000では次の場所にあります。

```
<drive letter>:\%winnt%\system32\drivers\%etc
```

2. サーバー名を指定し、ポートを割り当てます。

ネットワーク上で実行するSAS/SHAREサーバーは、SERVICESファイル内でそれぞれサービスとして定義する必要があります。SERVICESファイル内の各エントリでは、サービス名とサービスが使用するポート番号とアクセス方式が関連付けられています。SAS/SHAREサーバーもこの形式で入力します。

```
<server name> <port number>/<protocol> # <comments>
```

サーバー名は、1~8文字で指定します。最初の文字は、アルファベットまたはアンダーバー（_）でなければなりません。その他の文字には、アルファベット、数字、アンダーバー、ドル記号（\$）、アットマーク（@）を使用します。1024以下のポート番号は予約済みなので、ポート番号には1025以上を指定します。プロトコルにはTCPを指定します。

例えば、MKTSERVという名前のサーバーは、次のように入力できます。

```
mktserv 5000/tcp # SAS server for Marketing and Sales
```

サーバー名は、サーバーのSASセッションにおいて、PROC SERVERステートメント内のSERVER=オプションに指定されます。また、ユーザーおよびサーバーの管理者プログラムにおいて、PROC OPERATEステートメントとLIBNAMEステートメント内のSERVER=オプションに指定します。SERVICESファイルにサーバー名が定義されていない場合、「__ポート番号#」を使用しなければなりません。例えば、server=__5012のようになります。

PROC SERVERステートメントとPROC OPERATEステートメントのオプションについては、『SAS/SHARE 9.2 User's Guide』を参照してください。

クライアント側のコンポーネント

SAS/SHAREには、SASとは独立した、クライアント側のコンポーネントが含まれています。SAS 9.2 Software Downloadサイトから入手できるこれらのコンポーネントについて、下記に説明します。

SAS/SHAREデータプロバイダ

SAS/SHAREデータプロバイダにより、WindowsプラットフォームでOLE DBおよびADO互換アプリケーションを使用して、SASデータのアクセス、更新、操作を行うことができます。

SAS ODBCドライバ

SAS ODBCドライバにより、WindowsプラットフォームでODBC準拠のアプリケーションを使用して、SASデータのアクセス、更新、操作を行うことができます。

JDBC用SAS/SHAREドライバ

JDBC用SAS/SHAREドライバを使用して、SASデータにアクセスおよび更新を行うアプレット、アプリケーション、サーブレットを作成できます。JDBC用SAS/SHAREドライバを含むJava Toolsパッケージには、Java用SAS/CONNECTドライバも含まれています。これらのインターフェイスを使用してJavaプログラムを作成する場合は、トンネル機能も併せて使用してください。Javaアプレットでトンネル機能を使用すると、Javaアプレットにおけるセキュリティ上の制限を回避することができます。

C言語用SAS/SHARE SQLライブラリ

SAS SQL Library for Cが提供するAPI (application programming interface) を使用すると、SAS/SHAREサーバーを介して、リモートホストにSQLクエリとステートメントを送信できます。

NLS情報

SAS/SHAREを使用してアジア・ヨーロッパ言語アプリケーションを開発またはサポートする場合は、3ページの「NLS (National Language Support) の設定」を参照してください。

第10章 : Windowsパフォーマンスモニタおよびイベントログのサポート

上級ユーザーや管理者は、Windowsパフォーマンスモニタを使用して、SAS 9.2 Foundation内部的な指標を監視できます。この機能を使用して、SAS 9.2のパフォーマンス分析と調整を行うことができます。また、イベントログを使用して、SAS 9.2 FoundationおよびSAS Setupの重大なエラーを追跡調査できます。

SAS 9.2 Foundationのインストールにおいて、これらの機能をインストールするにはシステム管理者権限が必要なので、デフォルトでは他のユーザーはこれらの機能をインストールできません。これらの機能は、SAS Setup Diskのsasフォルダにあるsetup.exeを実行して、後から追加することもできます。

Windowsパフォーマンスモニタおよびイベントログをインストールするには、次のコマンドを発行します。

```
setup perfmon
```

Windowsパフォーマンスモニタおよびイベントログをアンインストールするには、次のコマンドを発行します。

```
setup uperfmon
```



support.sas.com

SAS is the world leader in providing software and services that enable customers to transform data from all areas of their business into intelligence. SAS solutions help organizations make better, more informed decisions and maximize customer, supplier, and organizational relationships. For more than 30 years, SAS has been giving customers around the world The Power to Know[®]. Visit us at www.sas.com.

英語版更新日 September 5 2008

Microsoft® Windows® 版SAS® 9.2 Foundation 設定ガイド

2008年11月28日 第1版第2刷発行 (92B14)

発行元 SAS Institute Japan株式会社

〒106-6111 東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー11階

本書の内容に関する技術的なお問い合わせは下記までお願い致します。

SASテクニカルサポート

TEL: 03(6434)3680 FAX: 03(6434)3681